



5 生活習慣・学習習慣の共通化・段階化

小学校への円滑な接続のためには、幼稚園・保育園・こども園の保育士・教員、小学校の教員が「生活習慣」「学習習慣」について共通の認識をもち、段階的な指導を重ねていくことが大切です。幼児期での指導が小学校入学後の指導に確実に引き継がれ、子供たちがとまどうことなく小学校生活をスタートできるよう、園は学校、や家庭、地域と共通理解を図り、連携しながら指導を進めていきましょう。

1 あいさつ、返事、言葉遣い

あいさつはコミュニケーションの第一歩です。あいさつをかわす心地よさを味わうことから始めましょう。家族同士のあいさつから、先生、友達、地域の方々を対象を広げていきます。

返事も人と人との大事なやりとりの一つです。名前を呼ばれた時や自分に向けた話を聞いた後には「はい」と返事をするを具体的な場面で体験できるようにしましょう。

人のかかわりが広がり、深まるにしたがって、相手や状況に応じた言葉遣いに気付かせていきましょう。保育士・教員がモデルとして行動しながら、体験を通して身に付けていきましょう。

2 持ち物の片付け

自分の身の回りの整理整頓や片付けから、クラスや園全体の整理整頓、片付けへと段階的に指導していくことが大切です。片付け方も発達や実態に応じて工夫しましょう。徐々に自分からすすんで取り組めるようにしていきましょう。

遊具や用具を大切に安全に扱えるよう、使う遊具や用具は発達や状況に応じて選択し、その特性や安全な使い方を伝えていくことが大切です。

3 時間を守る、見通しをもつ

保育士・教員の指示で次の活動を知り行動すること、次の活動を楽しみにすることから始めましょう。徐々に時計に関心をもたせ、生活の見通しがもてるようにしていきます。

また、時計や一日の流れの掲示の活用の仕方に気を付けましょう。時間ばかり気にして遊びに集中できないということがないようにすることが大切です。

下町っこみんなの約束

* 「平成21年度 教育課題研究委員会 リーフレット」より

へんじあいさつはげんきよくします

地域の方とあいさつしましょう	自分からすすんであいさつしましょう
友達同士であいさつしましょう	あいさつしましょう
先生とあいさつしましょう	相手を見てあいさつしましょう
家族とあいさつしましょう	あいさつしましょう

あいさつをする心地よさを味わう

5歳
3歳

つかったものはかたづけます

みんなのものもたいせつにします

すすんで身の回りを清潔にしたり整理したりする	共同の遊具や用具を大切に、安全に使う
身の回りを清潔にしたり整理したりする	遊具や用具を大切に、安全に使う

5歳
3歳

はやねはやおきげんきにとうえんします

生活に見通しをもち状況に応じて進んで行動する

生活に見通しをもち状況に応じて行動する

保育士・教員の指示で次の活動を知り行動する

5歳
3歳

4 話の伝え方・聞き方

話す楽しさ、話を聞く楽しさや会話の楽しさなどを感じる経験を十分にさせるようにしましょう。「話したことをわかってもらえてうれしい」「話を聞くっておもしろい」「話し合いながら遊ぶと楽しい」などの気持ちを味わえるようにすることが大切です。ただ黙って話を聞いているだけではなく話の内容に興味をもち、心と頭を働かせながら聞く子供を育てていきましょう。次第に、声の大きさに気を付ける、自分がそのように考えた理由を言うなど、相手に分かるように話すことを体験の中で意識させていきましょう。

はなしはめをみてしっかりききます

相手に分かるように話そうとする よい姿勢で聞く 話す人の目を見て聞く 話す楽しさ、聞く楽しさを十分に味わう	話を聞く意味や必要性を理解して聞く 最後まで聞く
--	---------------------------------

↑
 5 歳

 3 歳

5 人とのかかわり方

まず自分が愛されていると感じること、安心していることが必要です。そして自分の思いを十分に出すこと（自己発揮）を経験させ、他の幼児や周りの状況とのぶつかり合いから自分の思いや考えを抑えたり（自己抑制）、調整したりすること（自己調整）ができるようにしていきます。幼児が様々な感情を体験することを大事にし、友達と生活や遊びを進める楽しさを感じられるようにしていきます。

ともだちとたのしくあそびます

自己調整する 自己抑制する 自己発揮する 安心・安定感	仲間意識をもつ 協同的な遊びを楽しむ 友達とのつながりができる 友達とのかかわりが増える 愛されていると感じること
--	---

↑
 5 歳

 3 歳

6 きまりを守る

保育士・教員との信頼関係を基盤に、まずは、十分に自己発揮できるようにすることが大切です。生活の約束を知らせたり、簡単なルールのある遊びを楽しんだりしていきましょう。ルールを守ると楽しく遊べることを経験させ、人とかかわる中で、折り合いを付ける体験を積み重ねていくようにします。人と気持ちよく生活したり遊んだりするにはルールや約束を守ることが必要であることを幼児自身が体験を通して納得できるようにしていきます。

きまりをまもります

ルールの必要性が分かり守ろうとする
 遊びに必要なルールを友達と決めて守る

 ルールを守ると楽しく遊べるのが分かる

順番や物の貸し借りなどみんなで過ごすための約束や
 簡単な遊びのルールが分かる

↑
 5 歳

 3 歳

7 弁当・給食

食事の指導については、家庭との連絡を密にし繰り返し指導していくことが大切です。偏食に対しては、栄養面のことにも触れながら、幼児自身が食べてみようと思えるような工夫をしていきましょう。箸の使い方については発達段階、個人差に応じて丁寧に指導しましょう。なにより楽しく食べることが大切です。

先生や友達と食べることを楽しむ
* 「平成21年度 教育課題研究委員会 リーフレット」
「台東区の幼・小・中のつながりのある楽しい食育」より

箸を正しく使って食べる 箸を使って食べる スプーン・フォークで食べる	苦手なものも一口食べてみる クラスの食事の準備・後片付けを自分たちでする【当番】 自分の食事の準備・片づけを自分でする 楽しく食べる
--	---

↑
 5 歳

 3 歳

* 詳しい内容については、台東区幼児教育共通カリキュラム「ちいさな芽」平成23年1月発行60～65ページを参照ください。



重視する内容 **生活習慣・学習習慣の共通化・段階化(例)**

ポイントを押さえた段階的指導 3～5歳児

- ◆保育・教育の実践において重視する点
- 1 主体的な活動、協同的な遊び
 - 2 見る、聞く、話す力の育成
 - 3 計画性・柔軟性のある環境・援助

□ は習慣化させたいこと 枠外の内容は、工夫点
 は保育士・教員の援助

◆あいさつ・返事



「へんじ あいさつは げんきよくします」
 「下町っこみんなの約束」より



5才の頃

地域の方とあいさつしましょう
 園外保育で出会った方や園にいらした
 お客さまとあいさつしましょう

友達同士であいさつしましょう
 幼稚園ではもちろん、他の場所で出会ったと
 きもあいさつできるとよいですね

先生とあいさつしましょう
 朝出会ったときや帰りのときなど、あいさつ
 をかわしましょう

家族とあいさつをしましょう
 これが基本です
 「いただきます」「ごちそうさま」「いってま
 いります」「おかえりなさい」など家庭でも
 習慣付けていきましょう

自分から進んであいさつしましょう

相手を見て、あいさつしましょう



2・3才の頃

あいさつをかわす心地よさを味わう

★家庭と連携しましょう

あいさつは、人と人とのコミュニケーションの基本です。家庭でも、まずは保護者の方から声を掛け、あいさつをかわす心地よさを互いに味わえるよう、保護者にも働きかけましょう。

こんな工夫をしてみませんか

- 毎週1回あいさつ当番の親子が玄関であいさつをする。全親子が年間を通じて経験する。
- 登園時に、親子で立ち止まってあいさつをすることを継続する。
- 登降園時に保育士・教員が門に立ち、元気にあいさつする。

- 保育士・教員から元気よくあいさつをし、心地よさを味わえるようにする
- あいさつする姿に共感したり、元気よくあいさつした時の心地よさを言葉で表現したりしていく



◆持ち物・整理整頓

「つかったものは かたづけます」
「下町っこみんなの約束」より

「みんなのものも たいせつにします」
「下町っこみんなの約束」より

○進んで身の回りを清潔にしたり、整理したりする



自分の遊びの場を整理する。
(紙の切れ端等は所定の場所に入れる、使っているままごとの皿を整理して置くなど)

複数の物を自分で手順を考えて整理する

きれいに、次に使いやすいように片付ける

自分のロッカー等自分の場を整理整頓する靴をきちんとそろえる

遊びの場を片付ける

コップ・タオル・カバン
の始末をする

自分の使ったものを片付ける

○身の回りを清潔にしたり、整理したりすることができる

○共同の遊具や用具を大切にし、安全に使う

遊具や用具の安全な使い方を身に付ける

○遊具や用具の安全な使い方を繰り返し確認するとともに、場の取り方や置き方に配慮する。

自分のものと人のものとの区別ができる

○遊具や用具を大切にし、安全に使う

- 週に1回、自分のロッカーを整理する時間をとる
- 日々の生活の中でほうきの使い方や雑巾の絞り方を体験するようにする 年末の大掃除の機会も活用する
- 遊びの状況を把握し、片付けができていない子供への指導をする
- 登降園のしたくは自分でできるようにする 準備しやすいような配慮を保護者に働きかける
- 落ちていた物に気付き友達同士教え合えるよう、言葉をかけていく
- きれいになって気持ちがいよと感ぜられるようにする

片付け方で、こんな工夫をしてみませんか

- 遊具が足りないことがすぐわかるような置き方
- 片付けしやすい、整理しやすい環境 (実態に合わせ、数・大きさ・場所を考える)
- 実用的できれいな片付け方 「片付ける」から「分類する」へ 数を数える、番号をつける、高さをそろえる等
- 次に使う時に使いやすい片付け方

★家庭と連携しましょう

登園の準備や、かばんの中のものを出す等の降園後の後片付けは誰がしているか、など保育士・教員が実態をきちんと把握して 自分のことは自分でできるように、発達に応じて、家庭にも働きかけていきましょう。

5歳児後半ごろには、ほとんど自分でできるとよいですね。

3歳児

4歳児

5歳児

一年生

規範意識の芽生えの育成

こころざし教育

食育

体力の向上

生活習慣・学習習慣の共通化・段階化

地域財産等の活用

◆時間を守る・生活の見通しをもつ

【1日】



「きめられたじかんをまもります」

～小学校低学年～

「下町っこみんなの約束」より

○生活に見通しをもち状況に応じて進んで行動する

一日の流れや大まかな時間を自分で把握し動けるようになる

5歳の頃

○生活に見通しをもち状況に応じて行動する

自分で時計を見ながら動く

時計を意識できるようになる

保育士・教員の指示で次の活動を知り行動する

3歳の頃

★家庭と連携しましょう

保育士・教員、保護者など、子供の周りの大人たちは、子供にとってお手本です。

時間を守ることを機会を捉えて伝えていきましょう。

特に、登園時刻を守るようにしていきましょう。時間を守って登園する習慣は、小学校入学後、遅刻をせずに決まった時刻に登校することにつながります。

○自分で見て行動できるような言葉かけをする



★家庭と連携しましょう

生活に見通しをもたせることの意味と園での取組を具体的に伝えていきましょう。

家庭でも、年齢に応じて時計の針を意識した指示を出したり、家族で出かけるとき次の行動を事前に伝えたりできるとよいですね。

【1週間・1ヶ月】

生活の見通しをもち、行事に期待をもったり、その活動に向けて準備をしたりする

○カレンダーや予定表を表示する
降園時などにそれを見て話をする機会をもつ

- 朝、一日の流れを確認する機会をもつ
- 一日の流れを簡単な時間割で表示する
- 集まる時刻を時計と共に表示する
- 見通しをもって生活や遊びを進められるように、言葉掛けや指示は少なくしていく

さらに・・・

自分の遊びをどのくらいの時間で片付けられるか見通しをもてるようになれば、次のような指示の出し方も考えられます。

「時計の針が○までに片付けを全部済ませて集まってください。集まったら□□をします。」

片付けを始める時刻は指示しません。集まる時刻から、子供自身がどのくらい前から片付けを始めるかを考えて、片付けをスタートします。

「時計の針が○になったら片付けます」

片付けを始める時刻がはっきりしています。その時間になったら、片付けをスタートします。



- 時計の針を意識させるような指示をする
 - 時計の模型をつくり、片付けの時間に合わせて示す
 - 数字の部分に絵のシールを貼る
 - 時計の周りに分の教示を付ける
 - 実態に応じて、指示したり確認したりしながら時間を意識させるようにする
 - 分かりやすい指示を出す
- 発達に応じ、指示の内容や指示の数に留意する

◆ 保護者への、予定や持ちものの伝達

子供が明日のことに見通しや期待をもち、必要なものを保護者に伝え一緒に準備する経験を通して、主体性や自立心を育てる。

例えば明日料理をするためエプロンと三角巾を持ってくるという場合・・・



明日の活動や状況が分かり、伝えたい内容や言葉を考えて伝える

明日は料理をする。家から持ってくるものをお家の人に伝えよう。(クラス・学級で持ち物は確認する)

伝えたい内容を理解し、自分で言葉を考えて伝える

明日料理をするので、エプロンと三角巾がいる。どう言えばよいか自分で考えて伝えよう。

5歳の頃

伝えたい内容を理解し教師と一緒に考えた言葉を伝える

「明日料理をするので、エプロンと三角巾を用意してください」と伝えよう。

- 伝言ゲームなど遊びの中で言葉で伝える楽しさを経験させる
- 保護者に伝える時間を降園時等につくる
- 伝言する内容が分からなくなってしまうときにどうしたらよいか考えることも大切な経験なので、子供の姿を見守りながら必要な援助をする

★家庭と連携しましょう

伝達することで育てたいことを保護者にも伝え、子供の自主性を尊重しながら、子供の話を受け止めていただけるようにしたいですね。

伝言の内容を子供には分からないように直接保護者に伝えておく配慮も必要な場合があります。

◆ 手紙を折る・手紙を配る

- 手紙の折り方は、一人一人の実態を把握し、個別指導をする
- 手紙の数が多いと混乱するので配布日に配慮する
- 表を外にして折ると、折ったままだも内容が分かる

○代表の子供が自分のグループの人数分を取りに来て配る

○当番の子供が全員の子供に配る

○グループごとに1列に並んでいる状態で自分の分を取り、後ろに渡す

このように様々な配り方をする中で、次のような経験ができるようにする

- ・数に関心をもつ経験
- ・人の役に立つ経験
- ・当番の役割を意識する経験
- ・グループの友達とのつながりを強くする経験
- ・小学校でよく行う配り方の経験

経験させたいことに合わせて生活の仕方を工夫することが大切。

端と端をきちんと合わせて折る

あらかじめ折っておく

保育士・教員が一人ずつ配る



- 何を子供に経験させたいかにより、手紙の配り方を選択する
- 一斉で集まっているときに行う(降園時や昼食前など)
- 手紙の内容や大切さを話し、受け取ったらずぐにしまう等の配慮をする

★家庭と連携しましょう

5歳児になったら、個人情報や重要なもの以外の提出物の回収は、子供が決められた場所(かご等)に自分で出すようにしていきましょう。

こんな工夫をしてみませんか

- 「おたよりバインダー」や「連絡袋」を活用し手紙の配布や提出物の回収をする。

◆話を聞く習慣や態度

「はなしは めをみて しっかりききます」

「下町っこみんなの約束」より

○話を聞く意味や必要性を理解して聞く

- ・何のために集まっているか、話を聞くのか、を考え、それに応じた態度を身に付ける

【態度面】

○よい姿勢で聞く

- ・話す人の気持ちを想像する経験(礼儀・人権尊重)

○話す人の目を見て聞く

- ・話す人の気持ちを想像する経験(礼儀・人権尊重)

○最後まで聞く

- ・最後まで話を聞いてもらったという経験
- ・最後まで聞いてよかったという経験
- ・最後まで聞かないと分からないという経験

【心情面】

○聞く楽しさを十分に味わう

- ・絵本や素話を聞く楽しさや会話の楽しさを感じる経験

★家庭と連携しましょう

- 温かい関係の中で、応答的な会話を楽しむことが、聞く力のベースになります。家庭に働きかけていきましょう。
- 園で読み聞かせをしている絵本を保護者に紹介したり、絵本の貸し出しをしたりして、親子で絵本に親しむきっかけをつくりましょう。保護者に園で読み聞かせをしていただくのもよいですね。
- 保育士・教員、保護者は子供のお手本です。保護者会などでも話を聞く態度を意識できるようにしましょう。



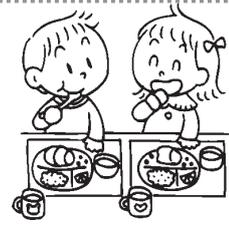
- ・誕生日なら、誕生日の子供のお祝いをするということが分かり、祝う気持ちをもって参加する。
- ・修了式なら、自分たちのお祝いに来てくださった方のお話だから、きちんと聞こうとする。

- クラスで集まった時に正しい姿勢で、話をよく聞く経験を積み重ねる
- いすに座ってじっくり話を聞く機会をもつ
- 週に1回以上、子供が生活や遊びについて発表する機会をもつ
- 着席し目をつぶり、静かに座る時間を設ける
- 長いお話の絵本や続き話など時間がかかるものも楽しく座って聞けるような本の読み聞かせを行う
- 話を聞く意味や必要性を分かりやすく伝え意識を高める
- 自分が話している時のことを思い出させ、話をしている人の気持ちを想像させる
- 「背中ピン」「手はおひざ」「先生を見て」など分かりやすい言葉で声かけする
- 落ち着いて話を聞ける環境に配慮する

- 発達段階や生活体験など子供の実態にあった絵本や素話を選択する。
- 子供の実態に合った内容、話し方、時間を配慮する。



◆食事(給食・弁当)



「先生や友達と食べることを楽しむ」

「台東区の幼・小・中のつながりのある楽しい食育」より

- 調理員の方や家族への感謝の気持ちを言葉や手紙で表す活動を取り入れる。

【心情面】

○感謝の気持ちをもつ

- ・調理してくれた人や食材に思いを寄せ、感謝の気持ちをもったり表現したりする経験

○マナーを守る

【態度面】

- ・口に入れたまま話さない
- ・ご飯とおかずを交互に食べる
- ・ひじをつかない、
- ・話す声の大きさに気を付ける

箸を正しく使い食べる
メニューによって 箸・スプーン等を使い分ける

5歳の頃

箸で食べる

スプーン・フォークで食べる

場合によっては、
・シート上など自分の場所に座って食べる
・食べ終わっても決められた時間まで座って待ち、みんなでごちそうさまをする

自分のいすに座って食べる

★家庭と連携しましょう

- 小学校の給食では、箸を使用します。箸で食べられるように段階的に指導していきましょう。

- メンバー・すわる場所に配慮する、テーブルに花を飾る等楽しく食べるための環境をつくる

○楽しく食べる

様々な人との会食を楽しむ

【知識面】

○食べ物への興味・関心をもつ

○行事食を食べることを楽しむ

- ・食べている物を意識し名前を知る
- ・行事の意味を知り、行事食を味わう
- ・外国の食べ物や食習慣を知る。

- 食材や栄養についての話をしたり掲示物を工夫したりする。
- 自分たちで栽培し収穫する体験を取り入れる。
- 食材の旬に気付かせ季節感をもたせる。
- 行事食を食べる際にその意味や歴史を分かりやすく伝える。

弁当当番・給食当番の仕事

- 台ぶきを絞りをふく
- やかんを運ぶ、片付ける
- 給食を配膳する
- あいさつをリードする

○適切な食行動をする

- 残さず食べよう、嫌いなものも食べてみようという気持ちももてるよう、食べることと健康な体との関係を伝えていく。

- 絞しやすい大きさの台ぶきを用意し、絞った後確認のため保育士・教員が絞り、水がでないようにすることを伝える。

クラス・学級の食事の準備・後片付けを自分たちでする(当番活動)

苦手なものも一口食べてみる

苦手なものも食べてみようとする

歯磨きをする

3・4才頃
ブクブクうがいをする

自分の食事の準備・後片付けを自分でする

自分の食事の準備・後片付けを自分でしようとする

正しい手洗いうがいの仕方を身に付ける

食事の前に手洗いうがいを

弁当袋は、マジックテープ止め→巾着→弁当包みと段階的に工夫する(幼稚園)

★家庭と連携しましょう

- 家庭でも園と同じように接することで、食習慣は身に付きます。給食や弁当の場面に参観してもらい、食に関する研修会を開くなど工夫しましょう。

3歳児

4歳児

5歳児

一年生

規範意識の芽生えの育成

こころざし教育

食育

体力の向上

生活習慣・学習習慣の共通化・段階化

地域財産等の活用



重視する内容 生活習慣・学習習慣の共通化・段階化(例)

「先生の紙芝居、楽しいな」

3歳児 11月

《ねらい》

○絵本や紙芝居を友達と見たり聞いたりして楽しむ。

◆保育・教育の実践において重視する点

- 1 主体的な活動、協同的な遊び
- 2 見る、聞く、話す力の育成
- 3 計画性・柔軟性のある環境・援助

《経験させたい内容》

- ◎みんなと紙芝居を見る楽しさを味わう。
- ◎想像力を膨らませながら話を聞く。
- ◎お話の世界を自分の生活や遊びに重ねる。
- ◎自分の思ったことを素直に言葉に出す。

《活動の概要》

- ・ピアノの周りに集まりみんなで楽しく歌を歌う。
- ・楽しい雰囲気の中で、紙芝居を見ることを伝える。
- ・タイトルを聞き、どんなストーリーか想像力を膨らませる。
- ・紙芝居を見る。
- ・自分の思ったことを話したり、友達の話の話を聞いたりする。

《環境》(保育室)



落ち着いて話が聞ける場所に集まる。

我先にと集まる子どもたちがトラブルにならないよう、集まってきた順番に座るようにする

紙芝居の扱い方

紙芝居はお芝居です。紙芝居の裏に書かれている文章は、脚本です。読んであげるのではなく、お芝居のように演じてください。紙芝居の舞台を使って、「さっとぬく。」「ゆらす。」「途中で止める。」などと、場面の効果を最大限に活かし、せりふは声色を登場人物になりきって変えるとよいでしょう。絵本は、演じるのではなく、読むものです。物語の世界に入り込むわけですから、読み手は演じることなく、読んでいきましょう。

《活動の展開》

子どもの姿	保育者の援助・環境の再構成 下線は、経験させたい内容にかかわる援助
<p>①どんなおはなしが始まるかワクワクしながら我先に紙芝居の舞台近くに集まってくる。</p> <p>③保育者が用意した紙芝居に大喜びする。タイトルを聞き、ストーリーを想像する。 ・「前に見たことがある」 ・「〇〇がでてくるおはなしだよね！」</p> <p>⑤紙芝居を見る。</p> <p>⑥ストーリーが進むにしたがって笑ったり、驚いたりする声が聞こえる。 お話に引き込まれ興奮し、声も大きくなっていく。 「あっ大変だ！」 「大丈夫だよ。」</p>  <p>⑧紙芝居が終わり、それぞれに感じたことを思い思いにつぶやく。 「〇〇がおもしろかったね！」 「わたしだって△△になってみたい。」 「ちょっとこわかった。」 「△△ごっこ、しょう。」「じゃあ私が〇〇ね。」など。</p>	<p>②みんなによく見える場所に舞台をおき順番に座るように声掛けをする。 全員がそろったところで季節の歌を歌い落ち着かせる。 「さあ今日はどんなお話をしようかな？」と期待をもたせる言葉掛けをし、用意した紙芝居のタイトルを読む。</p> <p>④紙芝居を楽しみにし、<u>想像を膨らませている子どもたちの気持ちに共感し、さらに楽しめるような声を掛け読み始める。</u></p> <p>⑦<u>目や表情で子どもの思いに共感していることを伝えつつ、場面、場面の切り替えで物語に引き込むようにする。</u> 抑揚をつけ、読み方(声の大きさ、間の取り方)やめくるタイミングなどを工夫する。</p> <p>⑨紙芝居を読み終えたあと、<u>余韻を楽しめるような時間をもつ。</u></p> <p>⑩感じたことを言葉にする子どもたち<u>一人一人の話に耳を傾け、共感する言葉を返していく。</u></p>

3歳児
4歳児
5歳児
一年生

規範意識の芽生えの育成

こころざし教育

食育

体力の向上

生活習慣・学習習慣の共通化・段階化
地域財産等の活用

重視する内容 **生活習慣・学習習慣の共通化・段階化**

◆この時期の援助・環境の構成のポイント（話を聞くことについて）

- 座る場所や間隔、話の長さや内容等に配慮し、全員が楽しく話を聞けるような環境を作る。
- 子どもたちと一緒に話を楽しみ、考えたり笑ったりしながら子どもたちの思いに共感する。

◆小学校につながる点

- 集団で話を聞く楽しさを十分に味わう体験が、話を聞く姿勢や話を聞くときのルールを身に付けることにつながる。
- 自分の思ったことを言葉にし、それを相手に受け止めてもらえた体験は、自分の考えを話す意欲につながる。



重視する内容 生活習慣・学習習慣の共通化・段階化(例)

「お話を聞いてね」

4歳児 9月

《ねらい》

- 自分の気持ちやイメージを言葉や動きに出し、保育者や友達に伝えようとする。

◆保育・教育の実践において重視する点

- 1 主体的な活動、協同的な遊び
- 2 見る、聞く、話す力の育成
- 3 計画性・柔軟性のある環境・援助

《経験させたい内容》

- 友達の前で自分なりの言葉で楽しかった経験を話してみようとする。
- 保育者や友達の話に興味をもって聞こうとする。
- 友達の前で話す楽しさを感じる。

《活動の概要》

【事前】

- ・保護者に夏休みの経験を書いてもらったり、楽しかったことの絵を家庭で描いたりしたものを園に提出してもらう。
- ・保育者は夏休み中の子どもの生活を把握しておく。
- ・保育者が子どもの話を聞き、受け止めたり、共感したりする。

【当日】

- ・クラスの友達の前で夏の経験を自分なりの言葉や動きで話す。
- ・友達の話に興味をもって聞く。

《環 境》(保育室)

- ・事前に描いた「夏の思い出(絵・文・写真など)」を用意する。
- ・自分なりの話をしたり、友達の話を知りたいことのできる場所や環境をつくる。



話を聞こう



夏の思い出を話そう

《活動の展開》

子どもの姿	保育者の援助・環境の再構成 下線は、経験させたい内容にかかわる援助
<p>①A児が保育者に楽しかった経験を話す。</p> <p>④A児「うん。」とうなづく。</p> <p>【一斉活動の場面】 -----</p> <p>②集まって保育者の話を聞く。</p> <p>⑤A児は恥ずかしそうに「プールに行ったの。」と答える。 クラス全員はA児の話をきく。</p> <p>⑦A児は保育者の問いに答える。 「浮き輪でぶかぶかしたのがおもしろかった。」</p> <p>⑩数名の幼児が自分の聞きたいことを言葉に出す。 「誰と行ったの?」「お母さんと(行ったの)?」 「〇〇プールに行ったの?」など</p> <p>⑫指名されたB児が「誰と行ったの?」と質問する。 A児は「お父さんとお母さん。」と答える。</p> <p>⑮B児は、うれしそうな表情をする。</p> <p>⑱A児は自分の席(場所)にもどる。</p>	<p>②保育者とのつながりを感じられるように、<u>自分の言葉で話をしようとする子どもの姿を受け止めたり、共感したりする。</u></p> <p>③後で、友達にも話をしてみないかと提案する。子どもが嫌がったり、迷ったりしている場合は、無理強いしない。</p> <p>①全員に集まるように言う。落ち着いて話が聞けるような場を設定する。</p> <p>③話の内容が分かりやすいように、絵を見せながら、保育者自身が夏の楽しかった思い出を話す。</p> <p>④A児を呼び、夏の楽しかった経験を聞く。聞いている幼児も分かりやすいように、絵や写真があれば、それを見せながらA児に質問をする。</p> <p>⑥「どんなことをして遊んだの?」などと聞く。<u>保育者がモデルとして見せることで、聞いている幼児が後で質問しやすくする。</u></p> <p>⑧A児が答えたことに「こんなことが楽しかったんだね。」と繰り返したり、「こうだったの?」と話が分かりやすくなるように質問したりする。 「浮き輪でぶかぶか浮いてたのがおもしろかったんだね。ぶかぶか浮くのって気持ちがいいよね。」 「Aちゃんと同じことしたことある人、いますか?」などと聞いている子どもが自分の体験と結びつけて聞けるような言葉掛けをする。</p> <p>⑨A児に聞きたいことがあるかどうかを他の子どもに投げかける。</p> <p>⑪子どもの話をしたい思いを受け止める。順番に話す必要性に気付かせ、聞きたい人は手を挙げるように言う。手を挙げたB児を指名する。</p> <p>⑬子どもの実態に応じて足りない言葉を補足しながら、話を聞いている子どもに分かりやすく話を進める。</p> <p>⑭「Bちゃんが聞いてくれてよかったよ。」等と認める。</p> <p>⑯子どもの実態に合わせ、数人の子どもの質問を取り上げる。</p> <p>⑰「Aちゃん、みんなに話してくれてありがとう。」と話す。クラスみんなの前で認めることで自分がみんなの前で話ができたと<u>いううれしさを感じられるようにする。</u></p>

重視する内容

生活習慣・学習習慣の共通化・段階化

◆この時期の援助・環境の構成のポイント

○言葉や動きで自分なりに表現することが楽しくなっているが、言葉が足らずに相手に伝わりにくい。自分なりの思いを出し、保育者に仲介してもらいながら自分の思いが友達に伝わったといううれしさを感じられる機会を意図的にもつことが大切である。4歳児が集中して話を聞ける時間を配慮する。

◆小学校につながる点

○保育者や友達に自分の楽しかったことを聞いてもらったり、共感してもらったりして自分の思いが相手に伝わる楽しさを感じる事が集団で話を聞いたり、話したりする基礎につながる。

3歳児

4歳児

5歳児

一年生

規範意識の芽生えの育成

こころざし教育

食育

体力の向上

生活習慣・学習習慣の共通化・段階化

地域財産等の活用



重視する内容 生活習慣・学習習慣の共通化・段階化(例)

「当番活動に取り組もう」

5歳児 9月

《ねらい》

- 一日の生活に見通しをもって行動するようになる。
- 自分たちの生活に必要なことに気付き、互いに声を掛け合って行動する。

◆保育・教育の実践において重視する点

- 1 主体的な活動、協同的な遊び
- 2 見る、聞く、話す力の育成
- 3 計画性・柔軟性のある環境・援助

《経験させたい内容》

- ◎当番の仕事に興味をもち、積極的に取り組む。
- ◎配膳の仕方が分かり、自分たちでしようとする。
- ◎みんなのために当番をする喜びと誇らしさを感じる。
- ◎配膳をしてくれた人に感謝の気持ちをもち、ありがとうを言う。

《活動の概要》 * 保育園、こども園の給食当番を想定しています。幼稚園はお弁当当番に置き換えてください。

- ・1グループ6名ずつで当番を行う。当番は一日交代で担当していく。その日の当番は、クラス内におかれた当番表で前日、降園前に表示しておく。事前に意識をもつと同時に翌日への期待感をもつ。
- ・食事の準備が始まる時間を知り、当番はグループのメンバー同士で声を掛け合い準備に入る。
- ・配膳用の給食帽や白衣を着け、配膳や食器の並べ方を意識し、こぼさないように、緊張しながら配膳を行う。
- ・当番が前に出て、「今日の給食のメニュー」を発表し、食事をいただくときに気を付けたいことを発表する。あいさつをし、食事を始める。
- ・各自 食後のあいさつをし、食器を片づける。テーブルを拭き、椅子を片付け、歯磨きをする。

《環境》

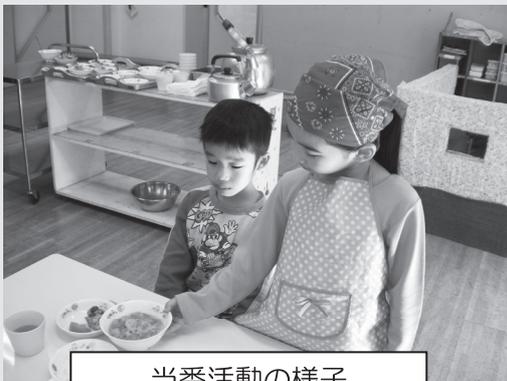
落ち着いて配膳に集中できるように、室内の環境を整える。

当番以外の幼児も静かに落ち着いて配膳を待てるような工夫をする。

- ・音楽をかける。
- ・保育者より食材やメニューの説明を聞く。

給食当番の約束(例)

- ・健康カードなどを基に健康状態を確認し、体調の優れないときは行わない
- ・爪を短く切る
- ・石鹸を使って、手をきれいに洗う
- ・給食帽と白衣をきちんと身に付ける
- ・配膳の最中はおしゃべりをしない



当番活動の様子

食事前の当番のごあいさつ

- 1 ご用意はいいですか
- 2 背中をまっすぐして、よくかんで食べましょう。
- 3 いただきます

※ 上記の2については、子ども自身が注意したい事を考えて変更していく。

- ・一定の食事(給食)時間内で食べ終わる指導の他、後期に向けて、食べ終わりの後も離席せずに、全員での「ごちそうさま。」を静かに待つ経験を取り入れ、習慣として身に付くようにしていく。

《活動の展開》

子どもの姿	保育者の援助・環境の再構成 下線は、経験させたい内容にかかわる援助
<p>【前日】-----</p> <p>【当日】-----</p> <p>②午前中の活動が終わり、食事の準備が始まるきっかけを知る。 遊びの区切りがなかなかつかない幼児もいる 「Aちゃん、お当番だよ。」 「あ、そうか。今日は〇〇グループの当番だね。」 声を掛けられた子どもも楽しそうに片付けを進める。</p> <p>③当番のメンバーが給食当番の準備を始める。 排泄を済ませる。 手をよく洗う。 給食帽子をかぶり、白衣を着用する。 全員のメンバーの準備ができたか互いに確認を行う。</p> <p>⑤全員で当番活動を始める。 食事の配膳の約束を守りながら、配膳を行う。 担当のテーブルが終わったら、メニューが全部揃っているか席ごとに確認していく。</p>  <p>⑨配膳の終了を保育者に伝える。 ⑩みんなの着席を待ち、今日のメニュー等を発表する。 ⑪食事前のあいさつをかわす。 着席し、みんなと食事をする。 席についた当番に、「ありがとう。」の言葉や、「明日は私が当番だね。」などの会話も聞かれる。</p>	<p>①前日の降園前、<u>当番表の変更がなされているか、確認する。</u></p> <p>①<u>清潔な白衣、給食帽子の準備ができているかの確認を行う。</u></p> <p>④当番の準備を見守り、上手くいかない所は個々に援助をしていく。 気持ちが急いで手洗いや手拭が不十分の幼児が時折見られるので、そのような場面では衛生面の大切さを伝えながら、きちんとできるように促していく。</p> <p>⑥<u>食器の正しい置き方を、自分たちで意識できるよう、見えやすい場所に図面(写真)で提示をする。</u>また、食器の持ち方、箸やスプーンの配り方の約束も繰り返し、その理由を含めて伝えていく。</p> <p>⑦保育者がメニューや食材などの話をする。</p> <p>⑧子どもは、自分の動きに夢中になると、周りが視野に入りづらくなるので、保育者は全体の動きに配慮し、安全を確保していく。 こぼしたり数が足りなくなったりなどのトラブルが起きた場合は状況に応じて原因を本人が考えたり、保育者が配慮しながら伝えたりする。</p> <p>⑫場面をとらえ、食事の準備をしてくれた当番や調理の方々に関して感謝の気持ちをもてるよう、また、それを言葉にして出せるようにする。そのために、<u>まず保育者が感謝の気持ちを持ち、日頃から生活の中で表していく。</u></p>

重視する内容

生活習慣・学習習慣の共通化・段階化

◆この時期の援助・環境の構成のポイント

○自分なりに当番の手順や方法、約束などに従って行動できるよう、場面をとらえて認めたり励ましたりする。当番活動の他にもグループでの活動を意図的に取り入れ、自己発揮できる環境を作り、友達と力を合わせる事で「できた。」「楽しかった。」という思いがもてるようにする。

◆小学校につながる点

○当番のやり方や手順をみんなで考え共有し、それらをみんなでやりとげる満足感が自信となり、小学校において自分で考え行動できることにつながる。

3歳児

4歳児

5歳児

一年生

規範意識の育成

こころざし教育

食育

体力の向上

生活習慣・学習習慣の共通化・段階化

地域財産等の活用



重視する内容 生活習慣・学習習慣の共通化・段階化（例）

「みんなの場所もきれいにしよう」（大掃除）

5歳児 12月

《ねらい》

- 生活に見通しをもち状況に応じて行動する。
- 身の回りを清潔にしたり整理したりすることができる。

◆保育・教育の実践において重視する点

- 1 主体的な活動、協同的な遊び
- 2 見る、聞く、話す力の育成
- 3 計画性・柔軟性のある環境・援助

《経験させたい内容》

- ◎整理整頓された清潔な環境の中で生活する気持ちよさや、生活のしやすさを実感する。
- ◎きちんと並べたり、分類したり、数の確認をしたり、いつもある場所に戻したりするなど、物の整理の仕方が分かる。
- ◎自分たちの保育室だけでなく、みんなが使う場所や遊具、用具などの片付け方にも気づき、必要に応じて直したり、整理したりする。
- ◎みんなのためになっていることの喜びを感じる。

《活動の概要》

【事前】

- ・3・4歳児の時から、自分のロッカーや保育室の片付けを繰り返し行ってきた。
- ・5歳児になり、片付けの確認当番があるとよいということになり、「片付けパトロール隊」を作った。
- ・「パトロール隊」の役割は、片付けた保育室にゴミが落ちてないか、遊具や用具はきちんと片付けられているかを確認し、出来ていないことがあると「パトロール隊」のメンバーが拾ったり片付けたりしてクラスみんなに状況を報告し、どうしたらよいかをみんなで考えるということである。
- ・「パトロール隊」は交代で行い、クラスの全員が経験できるようにした。
- ・「パトロール隊」の役割が分かってきた7月頃に少しずつパトロールの範囲を保育室から広げ、園庭や砂場の遊具などの確認も役割の中に入れていった。

【当日】

- ・年末の大掃除に、自分のロッカーの整理が終わるとクラス全員が4つの「パトロール隊」に分かれて保育室や遊戯室、廊下や階段の雑巾がけや園庭や砂場の遊具を洗ったり、点検をしたりする。

【事後】

- ・年度末、小学校へ就学するに際して、自分たちが生活してきた保育室への感謝の気持ちと、進級してくる4歳児のために、園内をきれいにしていく気持ちをもてるようにしていく。

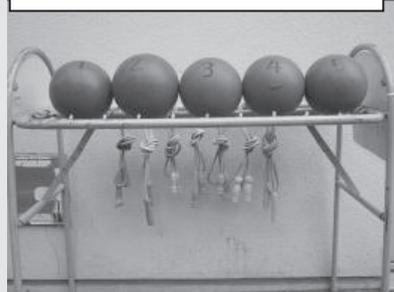
《環境》

環境は園生活の初めから設定しておく。

巧技台や大型積み木の高さを揃えるために壁にビニールテープを貼る。



足りないものが分かるように、ボールに番号を付ける。



分類できるようにカゴや引出し、棚等に絵カードを付ける



整理や片付けをするには

- ・椅子を5個重ねる。
- ・縄の結び方が分かり、結べる。
- ・ほうきが使える。
- ・雑巾が絞れ、拭ける。などの技能の育成も大切です。

《活動の展開》

子どもの姿	保育者の援助・環境の再構成 下線は、経験させたい内容にかかわる援助
<p>②保育室や園内の大掃除をする話を聞く。</p> <p>④「新しい年だ。遊ぶ準備だ」「廊下や階段も」と言いながら話を聞いている。 自分のロッカーや身の回りの片付けをする。 使わないものを片付けたり、雑巾で拭いたりする。 「パトロール隊」のメンバーが揃うのを待っていたり、一緒に手伝ったりする姿も見られる。</p> <p>⑥パトロール隊を始める。 「保育室パトロール隊」 ままごと遊具やテープの整理、書けるペンの確認、ステープラーの針を入れて使えるようにする等。 「遊戯室・廊下・階段パトロール隊」 みんなの遊戯室や廊下・階段等の床拭きや椅子、大型積木、巧技台等の数や形、高さを揃えながら片付ける。 「園庭・砂場パトロール隊」 みんなが使う縄を結んだり、ボールの数の確認や、砂場の遊具用具を洗って同じ種類別に片付けたりする。</p> <p>⑨掃除が終わったら、うがい、手洗いをする。</p> <p>⑩グループごとにごんばったことなどをみんなの前で発表する。 「(他のクラスの)先生が、助かるって言ってくれた。」 「さすが〇〇クラスさんねってほめてくれた。」 「小さいクラスの友達がありがとうって言ってくれてうれしかった。」と話す。</p>	<p>①大掃除や片付けに必要な用具を使いやすいようにしておく。</p> <p>③「今年も終わりです。遊んだり生活したりした、保育室やみんなの遊戯室、園庭や砂場もきれいにして新しい年も楽しく遊べるようにしましょう。」と大掃除の話をする。</p> <p>⑤<u>グループのメンバーと一緒にやろうとしている姿や、はりきって役割を果たそうとする姿を認めていく。</u></p> <p>⑦<u>園やクラスで決められた共通の片付け方に沿っていることを認める。</u></p> <p>⑧<u>他のクラスの保育者も「パトロール隊、ご苦労様。パトロール隊がいるおかげで助かります。」と声を掛けたり、3・4歳児の子どもたちにも「みんなのために活躍してくれているパトロール隊、かっこいいね。」と声を掛けたりする。段階に応じた5歳児の片付け方で行っていることを認める。</u></p>  <p>⑩グループごとにごんばったことをみんなの前で発表する機会をもち、きれいになった気持ちよさと、子どもたちの<u>頑張りを認める言葉を掛ける。</u> 自分たちのことだけでなく、<u>園全体のことも考えられるようになったことを言葉で具体的に認め、子どもの思いに共感する。</u></p> <p>⑫掃除後の保育室などを見て、<u>きれいになった気持ちよさをみんなで味わえるようにする。</u>広い場所でゲームをしたり踊ったり片付け後の充実感を味わう。</p>

3歳児
4歳児
5歳児
一年生

規範意識の
芽生えの
育成

こころざし
教育

食
育

体力の
向上

生活習慣・学習習慣
の
共通化・段階化
地域財産等
の活用

重視する内容 **生活習慣・学習習慣の共通化・段階化**

◆この時期の援助・環境の構成のポイント

- 掃除をするのに必要な用具や、物を分類するかごなどをすぐに取り出せるようにしておく。
- 共通の片付け方を理解し、子どもたちが気付いて、やろうとしている姿を具体的な言葉で認めていく。
- 環境整備に努め、整理整頓された中で生活する気持ちよさを繰り返し言葉で伝える。
- 担任以外も5歳児の段階に応じた活動ができている姿を認め、みんなのためになっていることが実感できるようにする。
- 頑張った気持ちを認めながら、片付け後の気持ちの発散ができるような楽しい活動をクラスのみんなで楽しめるようにするとよい。
- 役に立つ喜びを感じる経験が家庭でもできるように、家庭と連携を図っていく。

◆小学校につながる点

- 繰り返し、きれいになった気持ちよさや生活のしやすさを実感することが大切である。また次の遊びを楽しくする準備だという意識を育てることで、自ら学習の準備をして学習に向かう態度を育てていくことにつながる。
- 同じ種類の遊具や用具を集めたり、物の大きさを揃えたり、数の確認をしたりするなど、生活の中で分類したり数を数えたりする感覚を育てることにつながる。